

岩手県県土整備部

部長 上澤 和哉 様

要望書



令和6年11月11日

東北横断自動車道釜石秋田線

北上JCT江刺田瀬IC間整備促進期成同盟会
北上金ヶ崎パシフィックルート整備促進期成同盟会

東北横断自動車道釜石秋田線北上JCT江刺田瀬IC間の整備促進について

1 現況

「東北横断自動車道釜石秋田線」は、平成31年3月9日に全線が開通したことにより、太平洋側と日本海側の人流、物流を担う社会基盤として、その重要性が益々増しております。また、秋田自動車道の4車線化整備も、北上JCT～大曲IC間の暫定2車線区間約42kmのうち27.9kmが事業化されておりましたが、令和6年3月に横手北スマートIC～大曲IC間7.9kmの新たな事業化により、全線事業化が目前となっております。

近年、北上市以南の岩手県内陸南部地域には、北東北3県を配送エリアとした物流企業の進出が続いているほか、東北横断自動車道釜石秋田線の沿線地域では新たな企業立地や工場の増設が続き、企業活動が一層活発化しております。

また、地域医療サービスの向上の面においても、岩手中部医療圏（花巻市、北上市、遠野市、西和賀町）の中核病院である「岩手県立中部病院」や同地域の周産期母子医療センターである「北上済生会病院」が北上市に立地しており、東北横断自動車道釜石秋田線は遠野市方面からの安全な救急搬送等に寄与しています。

2 課題

しかしながら、現状、東北横断自動車道釜石秋田線は北上JCTから花巻JCTへ北上し大きく迂回するルートとなっており、秋田方面または仙台方面から釜石方面に向かう場合は、北上JCTから江刺田瀬ICまでを直線的に接続した場合と比較し、移動時間に大きなロスが生じているところであります。

国道107号においては、梁川口内トンネルの開通により最大の難所は解消されたものの、急カーブ・急勾配、冬季間の路面凍結など事故を誘発する要因が多く残されており、物流企業等から直線化を望む声を多数いただいております。また、釜石港や大船渡港発着のコンテナ貨物の輸送、とりわけ物流業界における2024年問題や、北上市への救急搬送の大きな課題となっております。

3 整備により期待される効果

- (1) 円滑な物流ルートを確保することにより、速達性の向上や港湾へのアクセス向上による物流手段の増加など効率化が図られ、更なる企業立地や産業振興が見込まれる。
- (2) 遠野市から県立中部病院等への安定した救急搬送ルートが確保されるほか、国道107号の事故減少が見込まれるなど安心・安全の向上に繋がる。
- (3) 岩手県・秋田県の観光拠点へのアクセス向上で広域周遊の拡大が図られ

る。

- (4) 経路の増加により冬期間や災害発生時においても安定したネットワークの代替性が確保される。

4 要望

令和6年度は、当同盟会に賛同する民間企業・団体の加盟数も更に増加し、現在では139を数えております。岩手・秋田両県における広域での経済活動の一層の発展と拡大、安心・安全な生活環境の確保のため、東北横断自動車道釜石秋田線「北上JCT～江刺田瀬IC」間の直線化整備の実現に向け、官民一体となり次の事項について強く要望します。

- (1) 北上JCTと江刺田瀬IC間の直線化は、周辺の既存企業等からのニーズが高く、太平洋側と日本海側の更なる人流・物流を促進し、地域経済の活性化への寄与が見込まれており、また、将来の推計人口等から交通動態の変化を予見し、当該区間を「岩手県新広域道路交通計画」に高規格道路として位置付けること。
- (2) 沿線地域における新たな企業立地や工場の増設等に伴う企業活動を支え、冬季間や緊急時においても円滑な走行が可能な交通基盤を確保するため、東北横断自動車道釜石秋田線北上JCT江刺田瀬IC間を直線的に接続する高規格道路の整備促進を図ること。

令和6年11月11日

北上市上江釣子17地割201番地2

東北横断自動車道釜石秋田線

北上JCT江刺田瀬IC間整備促進期成同盟会

会長 北上市長 八重樫 浩 文

